

原稿を読み解く

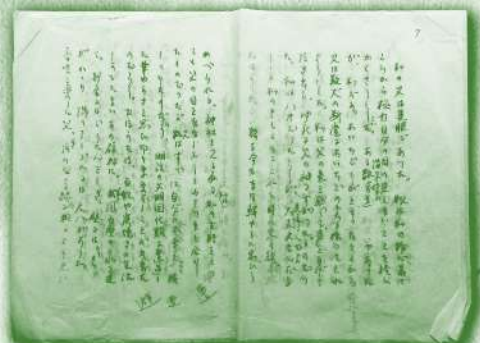
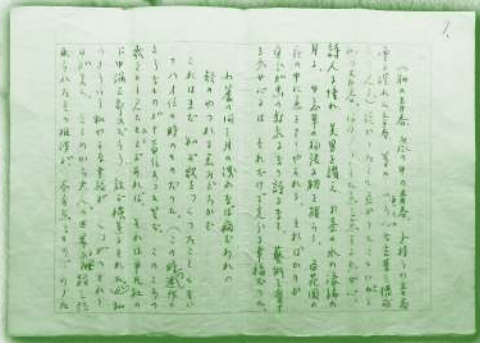
明治末から昭和初期にかけて歌人として「スバル」や「アララギ」で活躍した原阿佐緒。

阿佐緒は幼い頃から文学に親しみ、また自らが体験した出来事や感情を日記などに記していました。東京での美術学校時代に短歌と出会い、文学の世界に深く関わるようになった後には短歌だけではなく随筆や小説なども手掛けるようになりました。阿佐緒にとって「書く」ということは、自らの内側に渦巻く感情を昇華させる大切な手立てだったのかもしれません。

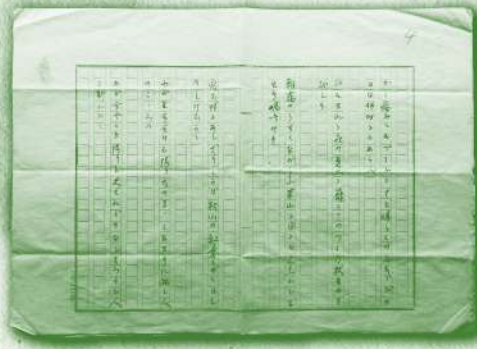
短歌や随筆など、阿佐緒が書き残した原稿は今でも数多く残されています。それらの原稿から、歌人、文筆家としての阿佐緒を探ります。



随筆原稿



歌 稿



晩年の俳句原稿



交通のご案内

- ・仙台駅より宮城交通バス→「富谷営業所」行き「富谷」バス下車、タクシーに乗り換え約10分
- ・東北自動車道大和インターチェンジより約15分
- ・仙台北部道路富谷インターチェンジより約10分